

苫小牧港漁港区将来ビジョン

「苫小牧港の特性を活かし水産を核とした魅力ある漁港区づくり」

平成 28 年 3 月

苫小牧港管理組合



目 次

I 地域の概況

1. 苫小牧港及び漁港区の概要	1
2. 漁港区周辺地域の現状と特性	2

II 課題

1. 苫小牧漁港区における目標	26
2. 水産分野	28
3. 防災分野	41
4. 観光分野	45

III 課題解決に向けた社会実験等について

1. 水産分野における社会実験	49
2. 防災分野における社会実験	49
3. 観光分野における社会実験	50
4. 水産分野の課題への対応	50

水産分野社会実験 1

1. 取組みの目的	55
2. 社会実験の内容	55
3. 香港輸出 報告	56
4. 香港輸出(空輸)による結果	59
5. 空輸による課題	60

水産分野社会実験 2

1. 取組みの目的	61
2. リーファーコンテナを利用した保冷実験	61
3. 韓国輸出 報告	68
4. 韓国輸出(船便)による調査結果	71
5. 船便輸出の課題	76

防災分野社会実験 1

1. 取組みの目的	78
2. 社会実験の内容	78
3. 結果と課題	79

防災分野社会実験 2

1. 取組みの目的	80
2. 社会実験の内容	80
3. 結果と課題	81

観光分野社会実験 1

1. 取組みの目的	85
2. 社会実験の内容	85
3. 調査結果	86

観光分野社会実験 2

1. 取組みの目的	87
2. 社会実験の内容	87
3. 調査結果	88

観光分野社会実験 3

1. 取組みの目的	89
2. 社会実験の内容	89
3. 調査結果と課題	90

IV 将来構想

1. 苫小牧港漁港区における目標	91
2. 漁港区将来ビジョンの全体目標	92
3. 基本目標	92
4. 苫小牧港漁港区における水産業を核とした将来の方向性	93
5. 目指す方針と具体的な施策	95
苫小牧港漁港区 利用構想図（ゾーニング図）	102

I . 地域の概況

I. 地域の概況

1. 苫小牧港及び漁港区の概要

苫小牧港は、北海道の南西部（石狩～苫小牧低地帯の南）にあり、太平洋に面し、道都札幌市の南南東約60kmに位置している。また、北海道の空の玄関口である新千歳空港の南約20kmの位置にある。苫小牧の気候は、本道の中では比較的温暖で、平均気温は7.6℃、夏は30℃以上、冬は-15℃以下になることはまれで、年間降水量も1,200mmと少ない。また、風向きは年間を通じ、主として南風であり、秋季から春季にかけては北風、夏季は南から南東の風が多い。

苫小牧港の陸上部周辺は、樽前火山礫に被覆された瘠薄地と低地帯からなる広大な勇払原野で、海岸部は、南西65kmを隔て地球岬に至る胆振海岸と南東160kmを隔て襟裳岬に至る日高海岸を両翼に、典型的な弓形状を形成している。

苫小牧港は道央部の太平洋沿岸域、北に向かい弓形に浅く湾入した部分に位置し、海岸地形は変化が少ない単調な砂浜地帯が続いている。海況は津軽暖流系水、親潮系水、沿岸系水などが交錯し、好漁場が形成されている。

苫小牧地区の漁業は10トン未満の漁船を中心とした漁業が中心で、主な漁業としては、ホッキガイ桁(けた)網、カレイ刺網、スケトウダラ刺網、サケ定置網漁業などが行われている。

その中でも全国一の水揚げを誇り、「苫小牧市の貝」にも制定されている「ホッキ貝」は年間の漁獲量が約700トンと、市町村別の漁獲量では15年連続日本一を誇り、当市の基幹漁業となっている。

ホッキ貝の生産は、漁業者が自ら徹底した資源管理を行い、漁業経営の合理化を図った結果で、現在は最も安定した漁業収入となっている。

漁船利用は、苫小牧港漁港区に所属しており、8月中旬から12月初旬にかけて、道内外よりイカ釣り外来船が多数来港し、漁港区の狭隘が問題となっている。

また、近年は輸入水産物の増加、さらには長引く経済不況などにより産地価格が低迷し、漁業生産額が落ち込むなど漁業経営は厳しい状況におかれている。このことから当地域の自然条件や海域の特性を考慮しながら沿岸漁業資源の増大を図り、将来に希望のもてる魅力的な漁業確立のため栽培漁業の推進をはじめ、漁業生産基盤整備や漁業施設の近代化を図っている。

工業が基幹産業であることから、漁業の認知度が低く、より多くの方に苫小牧の漁業を知ってもらうため、苫小牧漁業協同組合青年部による出前授業の開催や、女性部によるホッキ貝のPR活動など地域に向けた発信に取り組んでいる。その中でも、生産者・消費者の交流を図るために整備された体験交流施設（農林水産省都市農村共生・対流総合対策交付金にて平成26年9月建築）を利用し、同組合女性部が主軸となって苫小牧で水揚げされた魚介類のさばき方や調理方法体験を開催することで、食育や地元鮮魚の消費拡大及び、未利用資源の有効利用に寄与する取組みが期待されている。

苫小牧港は、北海道最大の国際拠点港湾として、日本有数の国際物流拠点に位置付けられている。苫小牧港漁港区はこのような国際拠点港湾の一面にあり、安心・安全な作業環境の確立や、流通、販売を含めた地域の活性化が求められている。

2. 漁港区周辺地域の現状と特性

(1) 漁業環境

苫小牧港を中心とする襟裳岬から地球岬にかけての海域では、古くから「サケ・マス」をはじめ各種漁業が営まれ、漁法も流網（サケ・マス）、定置網（サケ）、刺網（スケトウダラ、カレイ等）、カゴ（毛ガニ、エビ）、函（タコ）、釣り（イカ）、底曳網（スケトウダラ）、桁網（シシヤモ、貝類）漁など多様な形態で行われている。また漁業免許も、大臣許可、知事許可、海区承認、共同漁業権、区画漁業権、定置漁業権、組合承認など多様な種類で操業している。

特に、知事許可漁業である「サケ・マス流網」は、室蘭から襟裳岬にかけての海域の操業位置海区番号が付された全ての海域で行われている。なお、「サケ・マス流網」の操業期間は、4月15日から7月7日であり、苫小牧漁協所属の着業船は2隻である。1網の長さが10キロメートルに及ぶことがあり、定置網も沖出し7キロメートルと通常の沿岸漁業では例を見ない方法が取られているところも見られる。また、この海域における漁業規模は小さい上、資源の減少等の問題もあり、非常に厳しい環境にある。

苫小牧沖では、海岸線寄りから、「カレイ」、「タコ」、「カニ」、「スケトウダラ」、「ホタテガイ」、「カスベ」、「ツブ」、「ホッケ」、「スケトウダラ」、「メヌケ」、「エビ」の順に沖合に向かって操業漁場が展開され、海岸線とほぼ平行に帯状に長く操業している。

海岸線付近の沿岸では「サケ定置網」が設置されており、苫小牧漁業協同組合の操業区域では5ヶ統が設置されている。また、ホタテガイ漁場が苫小牧港の沖合にあるが、ホタテガイ漁業は鶴川漁業協同組合で操業しており苫小牧漁業協同組合では行っていない。

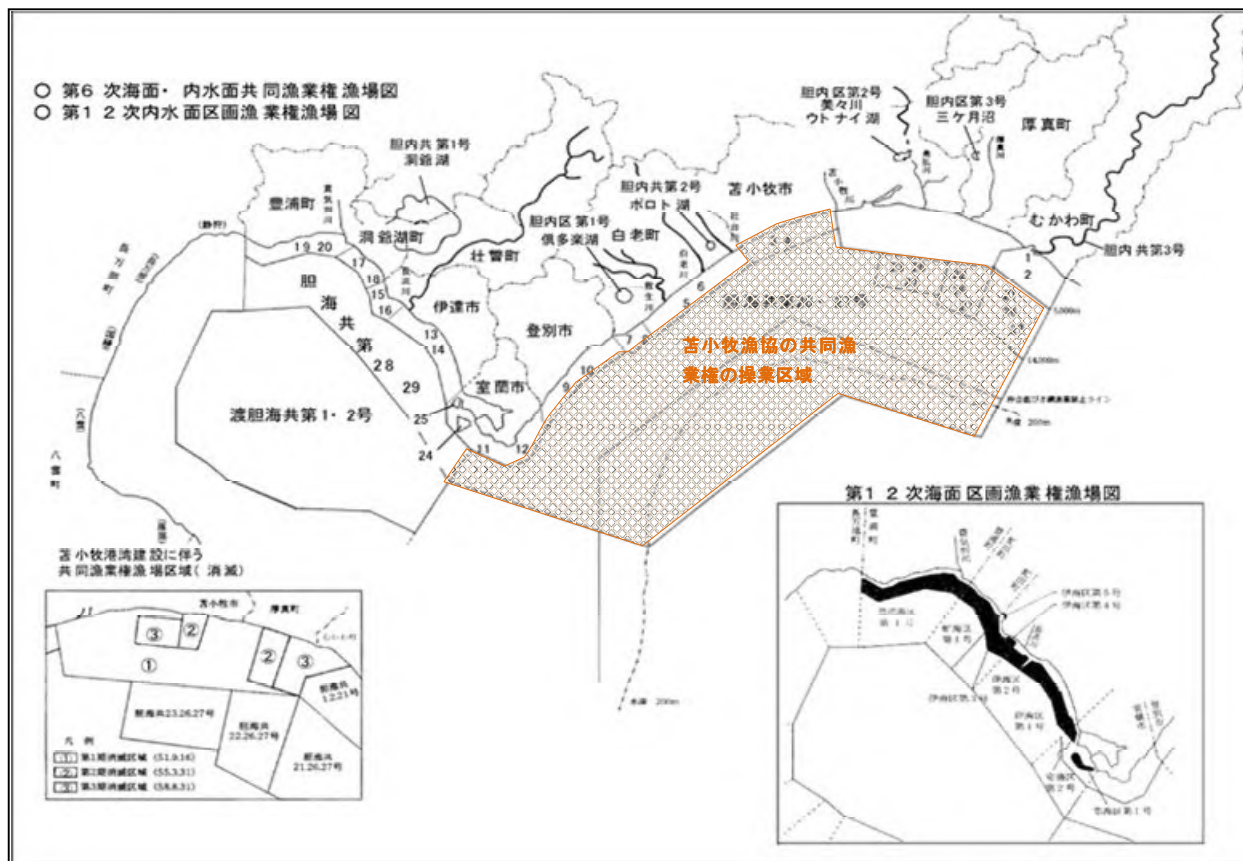


図 1-1 共同漁業権漁場図（苫小牧）

(2) 漁業

漁業は、10トン未満の漁船漁業が中心である。

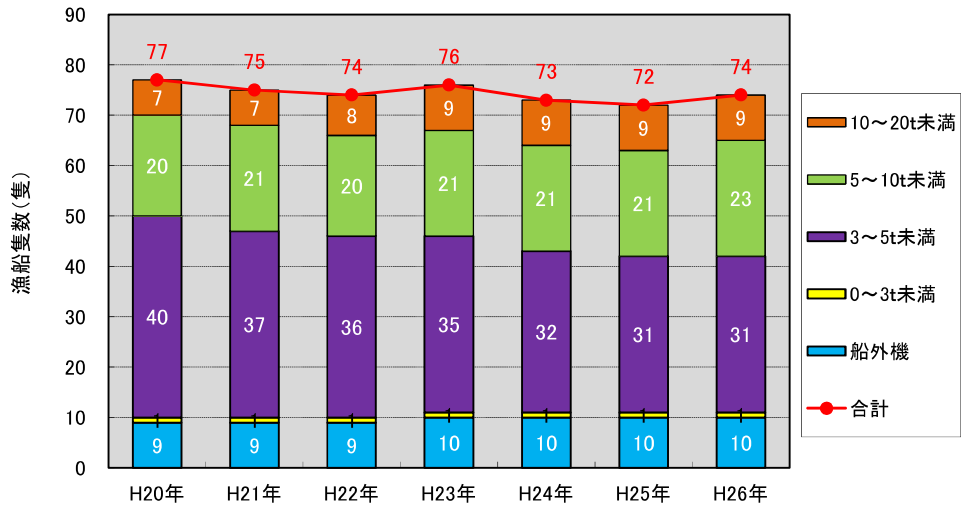


図 1-2 登録漁船隻数の推移

着業隻数の多い漁業種は、順にカレイ刺網、ホッキガイ等桁網、スケトウダラ刺網、ニシン刺網、カニ籠、ヒラメ及びホッケ刺網漁業である。この内、ホッケ刺網漁業については、最近の漁獲量の低迷に伴い着業者が減少している。

表 1-1 苫小牧港漁港区で水揚げされる漁業種と漁期

漁業種類	漁獲魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
刺網漁業	スケトウダラ	←→			←→			←→			←→		
	カレイ	←→						←→					
	ヒラメ	←→						←→					
	ホッケ	←→			←→								
	カスベ・アンコウ	←→		←→						←→			
	ニシン	←→		←→						←→			
	ハタハタ	←→		←→						←→			
	キョリウオ、チカ、イワシ、シヤモ	←→		←→						←→			
	メヌキ	←→		←→						←→			
	ベニズワイガニ	←→		←→						←→			
籠漁業	ツブザル	←→		←→						←→			
	タコ(箱)	←→		←→						←→			
	エビ	←→		←→						←→			
	ツブ	←→		←→						←→			
桁曳き網	ホッキ	←→		←→						←→			
	シヤモ	←→		←→						←→			
定置網漁業	←→		←→						←→				
イカ釣り漁業	←→		←→						←→				
潜水器	ウニ、ナマコ、ホヤ	←→		←→						←→			

表 1-2 H26 年度 主要漁業種別着業隻数

主要漁業種	着業隻数
カレイ刺網	42
ホッキ貝・エゾバカ貝・サラ貝桁網	39
スケトウダラ刺網	22
ニシン刺網	20
カニ籠	16
ヒラメ刺網	11
ホッケ刺網	6

夏から秋にかけて道南方面から太平洋沿岸を北上するスルメイカの外来船(H26 年度 利用実績 46 隻)によるイカ釣り漁業も盛んである。外来船利用が集中した場合、係留施設不足の問題が生じ、プレジャーボート等を含め、係留施設の利用方法が課題となっている。

表 1-3 漁港区 外来船利用隻数

			H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
外来漁船	漁船階層	バース諸元											
		30t以上～50t未満	4.5m	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		20t以上～30t未満	4.0m	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		10t以上～20t未満	3.5m	19	21	37	28	32	0	19	42	46	34
		5t以上～10t未満	3.0m	13	10	8	8	13	0	8	15	14	12
		3t以上～5t未満	2.5m	1	0	2	1	4	0	0	1	1	0
		3t未満	2.0m	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計			34	31	47	37	49	0	27	58	61	46	

※漁船階層毎のバース諸元は、漁港施設設計要領による。



外来船で輻輳する岸壁



岸壁に多層係留する漁船

近年の漁獲量は、8千～9千トンで推移しており、漁獲量の多い魚種はスケトウダラで、続いてサケ、カレイであるが年変動がある。ホッキガイはほぼ安定した漁獲である。漁獲数量の増減は、「スケトウダラ刺網」漁業に左右されると言える。漁獲金額の多い魚種はサケで、続いてスケトウダラ、ホッキガイの順である。

ホッキ貝桁網漁業は年間水揚げ量、約700トン程度を推移しており、平成26年のホッキ貝水揚げ量は、前年より減少はあるものの651トン（北海道水産現勢より）で15年連続全国一となった。東日本大震災以降の需要の高まりも影響している。苫小牧産ホッキ貝は、徹底した資源管理と漁業経営の合理化により最も安定した漁業となり、ブランド化にも寄与している。

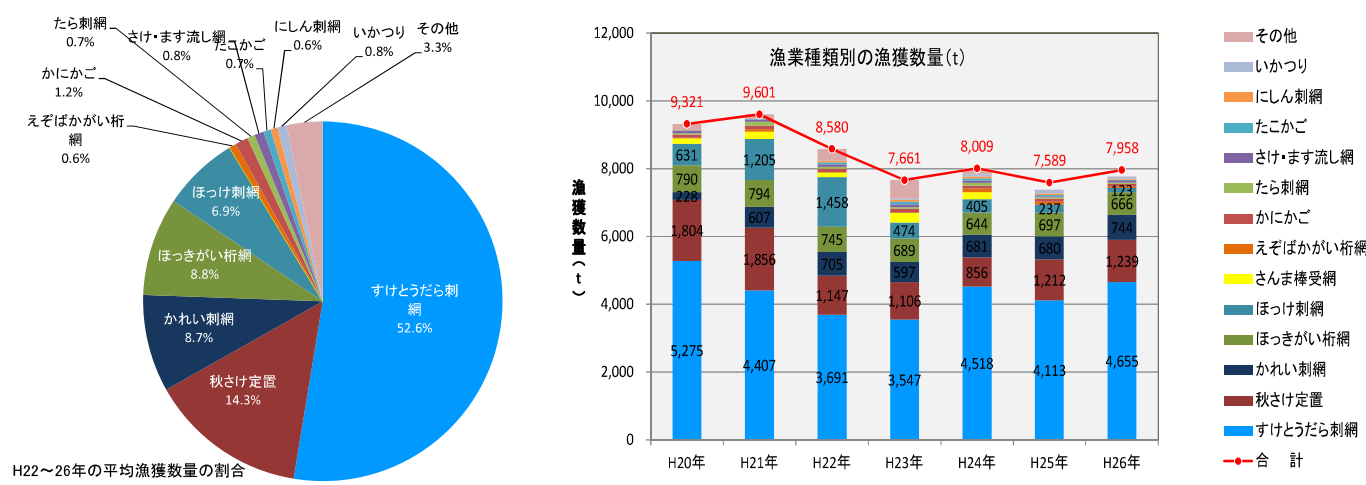


図 1-3 苫小牧港漁港区における漁獲量の推移（苫小牧漁業協同組合 業務報告書による）

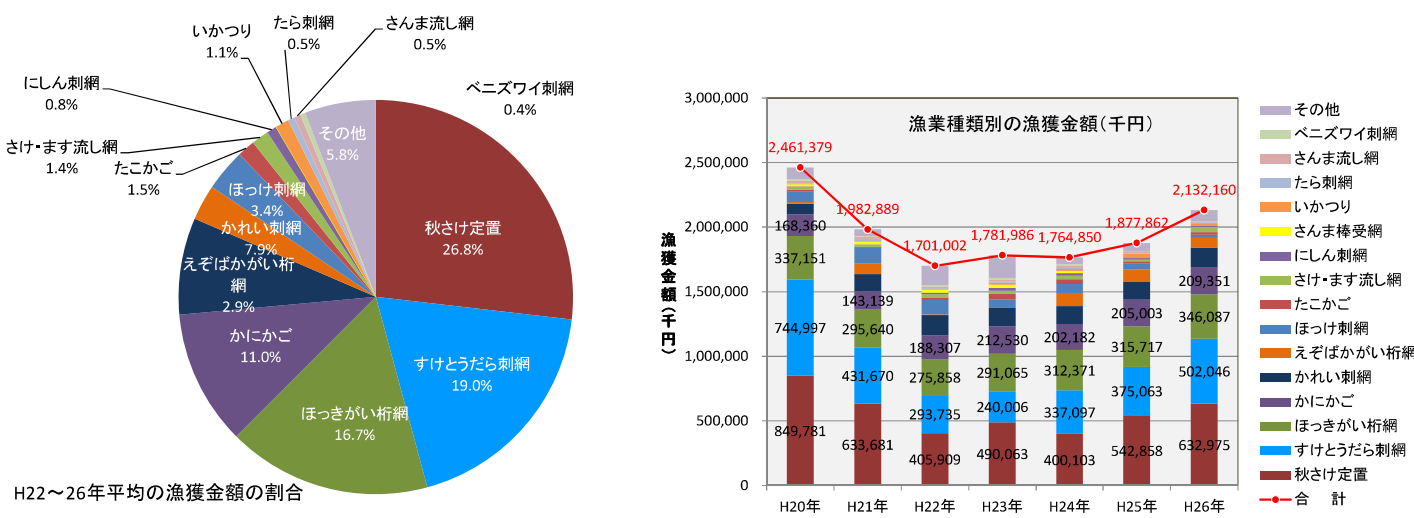


図 1-4 苫小牧港漁港区における漁獲金額の推移（苫小牧漁業協同組合 業務報告書による）

(3) 水産物流通

苫小牧沖で漁獲された鮮魚は漁港区内の公設地方卸売市場に集荷され仲買によって道内外へ流通している。苫小牧は地元加工場が少なく、地元では鮮魚消費が主であり主要魚種の大半は市外加工場にて扱われている。漁港区内の冷蔵庫が対中国施設輸出登録を取得、輸出への取組みも実施しており、冷凍の宗八カレイを中国に輸出している。



苫小牧市公設地方卸売市場内、岸壁前の状況

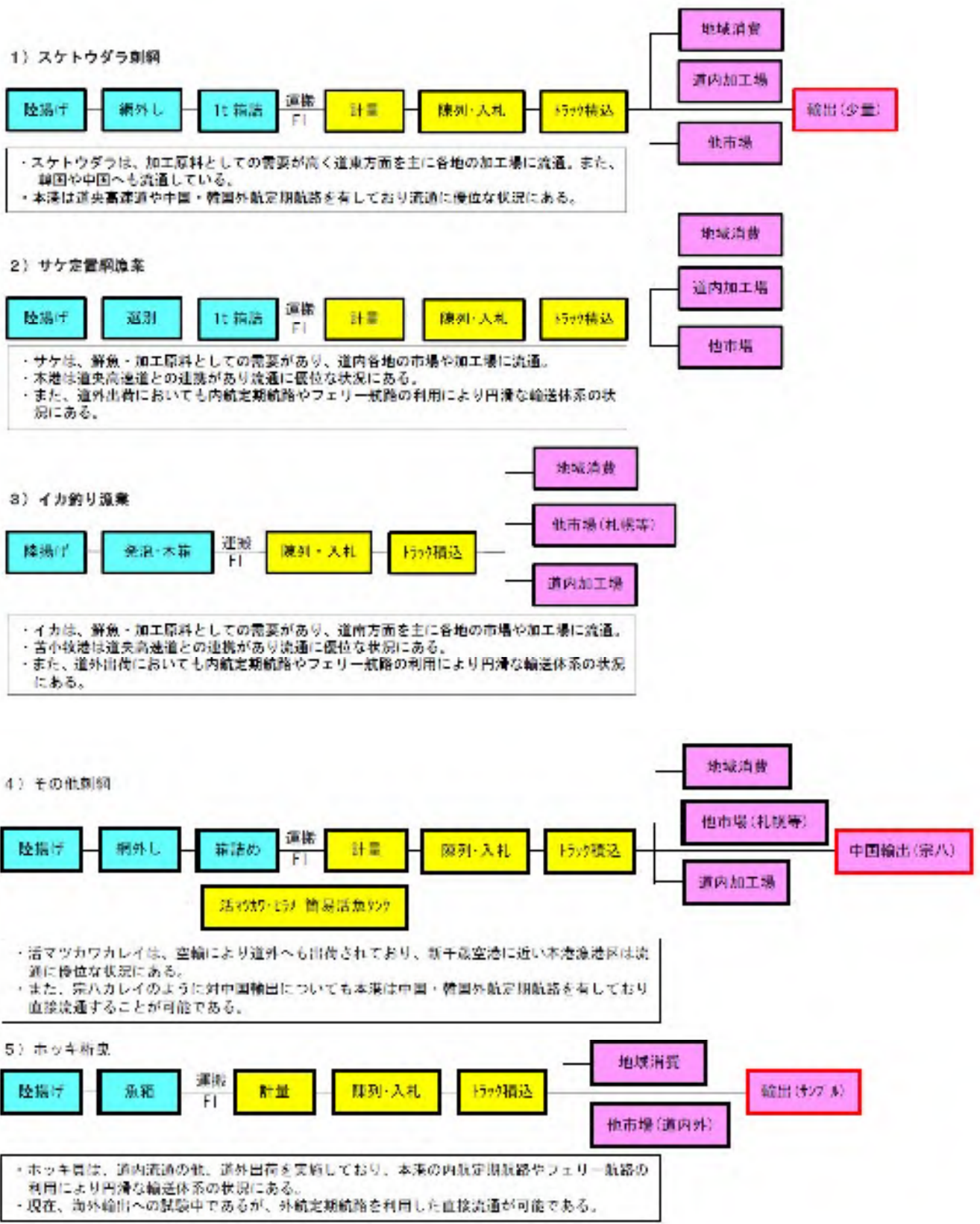


市場前で搬出を待つ イカ（発泡詰め）とスケトウダラ



宗八カレイの出荷状況

苫小牧港漁港区で陸揚げされる主な漁業種の生産から流通は次のとおりである。
 魚種によっては、道内外の他、苫小牧港を通じて海外にも流通、消費されている。



(4) 水産業関連施設の現状

苫小牧漁業協同組合が保有する水産関連施設は、冷凍冷蔵庫、製氷工場、加工場、作業場、倉庫、無線局、休憩施設等は全て漁港区内の漁協周辺に設置されており、錦岡水産会館（集会場）及びさけ・ますふ化場だけが離れた場所に設置されている。

表 1-4 苫小牧漁業協同組合の施設設置状況の一覧

種類	名称	構造及び規模等	所在地
冷凍冷蔵庫	苫小牧漁協冷蔵庫	凍結7.5t/日、冷蔵2.890t	苫小牧市汐見町
製氷工場	苫小牧漁協製氷工場	製氷40t/日、貯氷70t	〃
加工場	苫小牧漁協共同加工場	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板平屋建	〃
作業場	苫小牧漁協共同作業場	〃	〃
船捲揚場	苫小牧漁協船捲揚場	機械室、横取軌条、台車、リフト式上架施設	〃
倉庫	苫小牧漁協購買倉庫	木造亜鉛メッキ鋼板平屋建	〃
アパート	苫小牧漁協水産ビル	鉄筋コンクリート造4階建	〃
会館（集会所）	苫小牧漁協水産会館	木造モルタル2階建	〃
〃	錦岡水産会館	木造亜鉛メッキ鋼板平屋建	苫小牧市字錦岡
ふ化場	錦多峰さけ・ますふ化場管理棟	木造亜鉛メッキ鋼板平屋建	〃
石油タンク	苫小牧漁協軽油タンク	50kℓ: 1基、6kℓ: 1基	苫小牧市汐見町
〃	苫小牧漁協重油タンク	4kℓ: 1基	〃
機械装置	苫小牧漁協無線局	DSBIW	〃
休憩施設	外来船船員休憩施設	木造ガルバリウム鋼板平屋建	〃

苫小牧市内の苫小牧漁業協同組合を除いた水産物加工事業者の一覧を以下に示す。

苫小牧市内には、水産物加工事業者は少なく4社程度である。

表 1-5 苫小牧市内の水産物加工事業者の一覧

事業者名	事業内容
王子サーモン(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・スモークサーモンの製造販売 ・各種水産物の加工及び販売
(株)カネフジ藤野水産	<ul style="list-style-type: none"> ・ホッケ、鯨、宗八、オイランカレイ、コマイ、イカ、サンマなど一夜干 ・干物製品
(株)千葉海産	<ul style="list-style-type: none"> ・業務用水産物卸売 ・病院、介護施設等水産物販売
(株)丸恭水産	<ul style="list-style-type: none"> ・生ウニの折詰、塩水パック入れ ・帆立（生貝柱）販売、その他魚貝類卸売販売 ・魚醤油製造販売、加工食品販売

資料：苫小牧市 企業データブック（製造業）平成26年度版

(5) 防災対策

苫小牧市防災会議は、平成26年11月に「苫小牧市地域防災計画」の内、地震・津波災害対策編を改訂した。苫小牧市地域防災計画は、「地震・津波災害対策編」「風水害等対策編」「火山災害対策編」「資料編」の4編からなっている。

地震・津波災害対策編は、平成18年3月、国の中央防災会議が定めた500年間隔地震の発生が、ある程度切迫性を有している可能性がある日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の内の根室沖・釧路沖の地震（マグニチュード8クラス）の地震、津波被害を想定して作成していた。

しかし、平成23年（2013年）3月11日発生 of 東日本大震災により、地震・津波被害を想定した「北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討のためのワーキンググループ」にて北海道が平成24年6月に公表した関係市町村別の津波浸水予測図を基に、苫小牧市は津波ハザードマップを作成している。

また、苫小牧市では、苫小牧川、勇払・安平川の洪水被害を想定した風水害等対策編、樽前山火山被害を想定した火山災害対策編が以前から作成されている。苫小牧市は、平成25年3月に苫小牧市民向けに「防災ハンドブック」を作成し配布した。この中では、①日頃からの備え、②地震・津波に備えて、③風水害に備えて、④火山災害に備えて、⑤土砂災害に備えて、⑥自分たちのまちは自分たちで守りましょう、⑦災害時要援護者をみんなで支援しようの7章編成で構成している。苫小牧港漁港区においては、苫小牧市防災会議が定める想定被害は、地震・津波災害対策が該当する。



地震・津波災害対策編は、平成26年11月に改訂され、各町内会別に説明会が開催され、地区別津波避難計画及び津波ハザードマップが公表された。

漁港区が該当する汐見町町内会版の津波ハザードマップからは、苫小牧漁協が位置する区域の津波浸水深は、6.0m～7.0mに相当する。また、ぷらっとみなと市場、ほっき貝資料館、苫小牧市公設地方卸売市場が位置する区域の津波浸水深は、1.0m～2.0mに相当する。

この津波ハザードマップによる津波浸水深予測からは、漁港区一帯は相当な被害発生が推測され、何らかの防災対策が必要となる。実際、3.11の東日本大震災では、漁港区も浸水被害を受けている。

次ページ以降に漁港区周辺の町内会版津波ハザードマップを示す。

図 1-5 汐見町町内会版 津波ハザードマップ

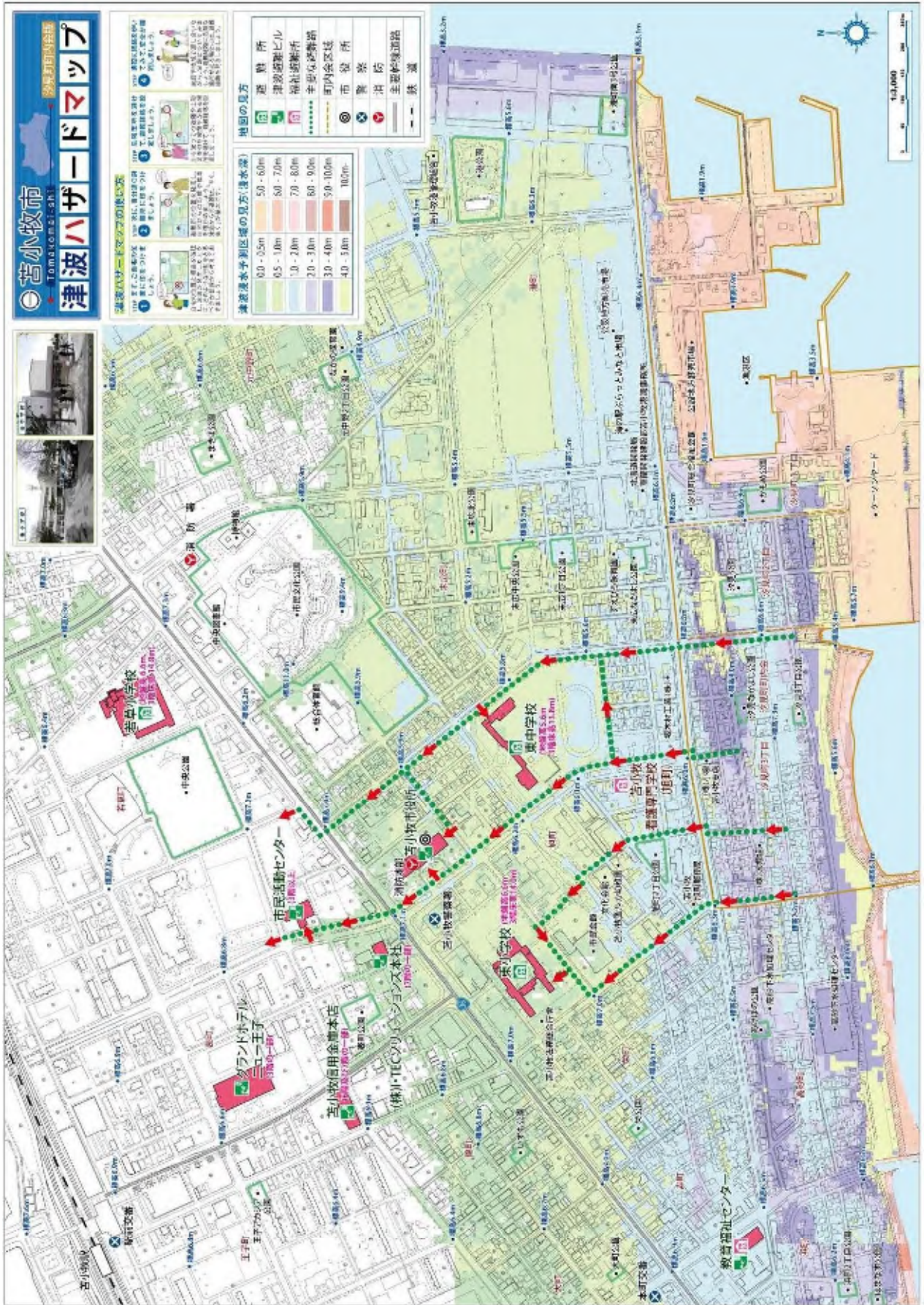


図1-6 元中野町内会版 津波ハザードマップ

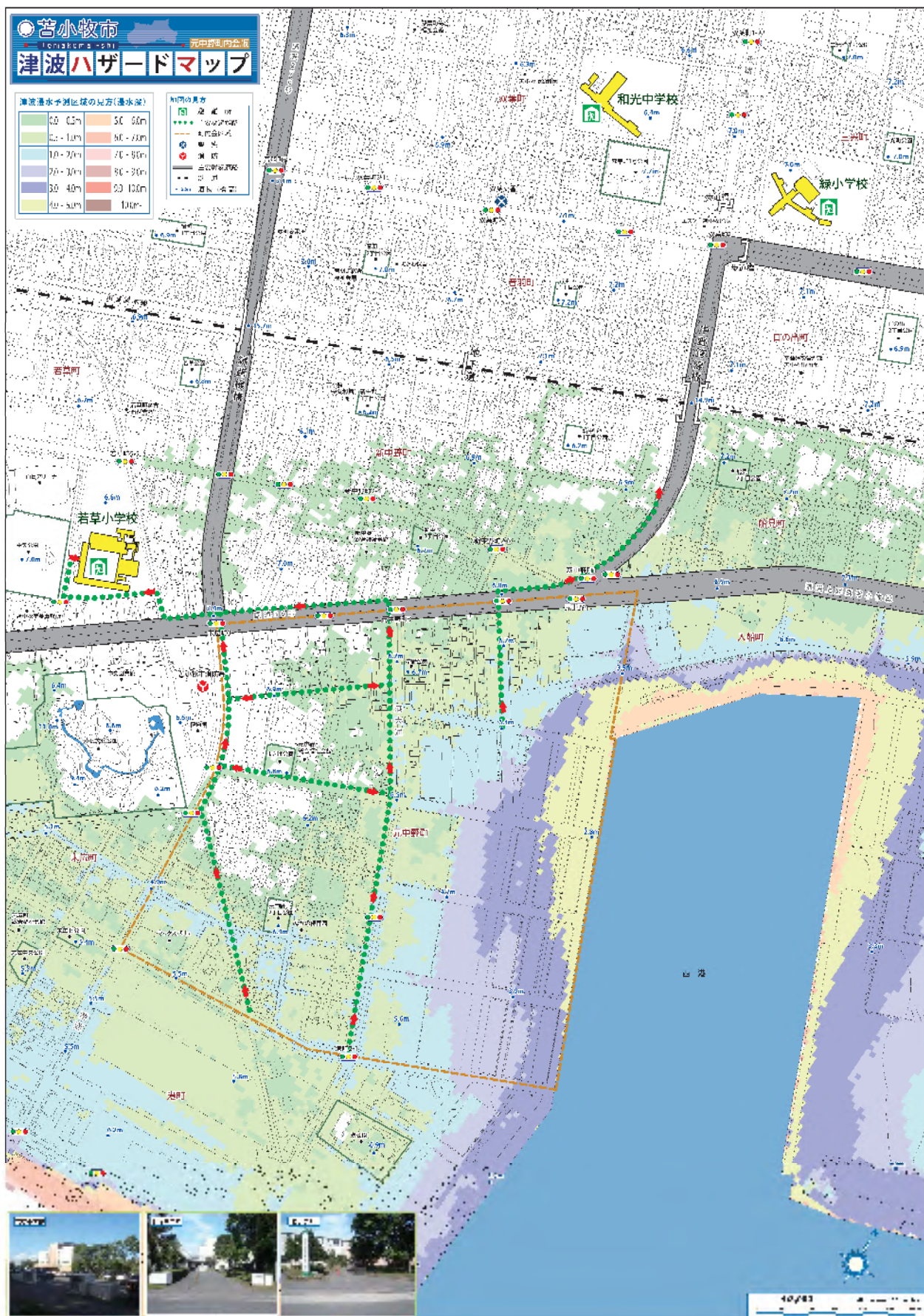
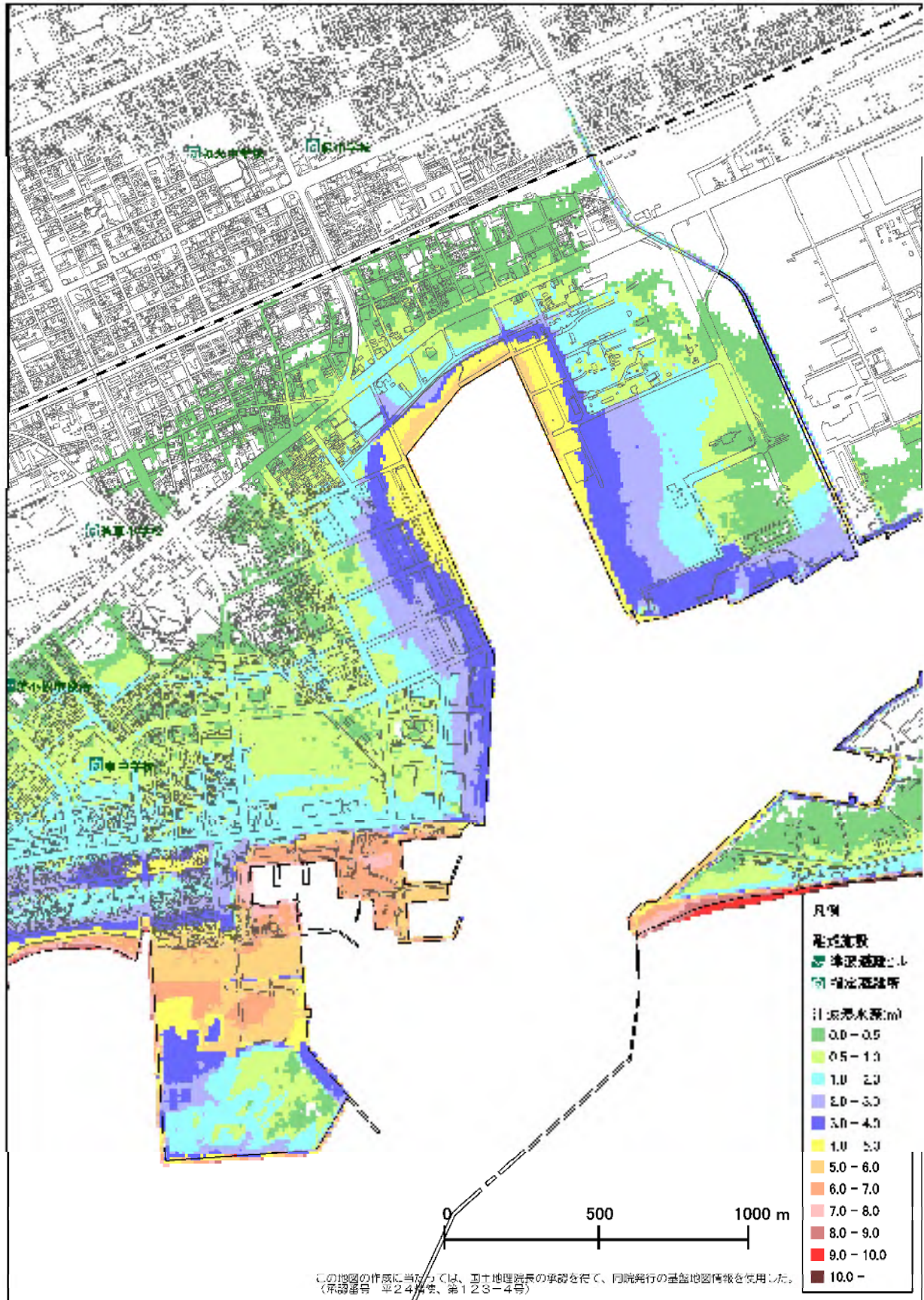


図 1-7 苫小牧市版No.7 津波ハザードマップ



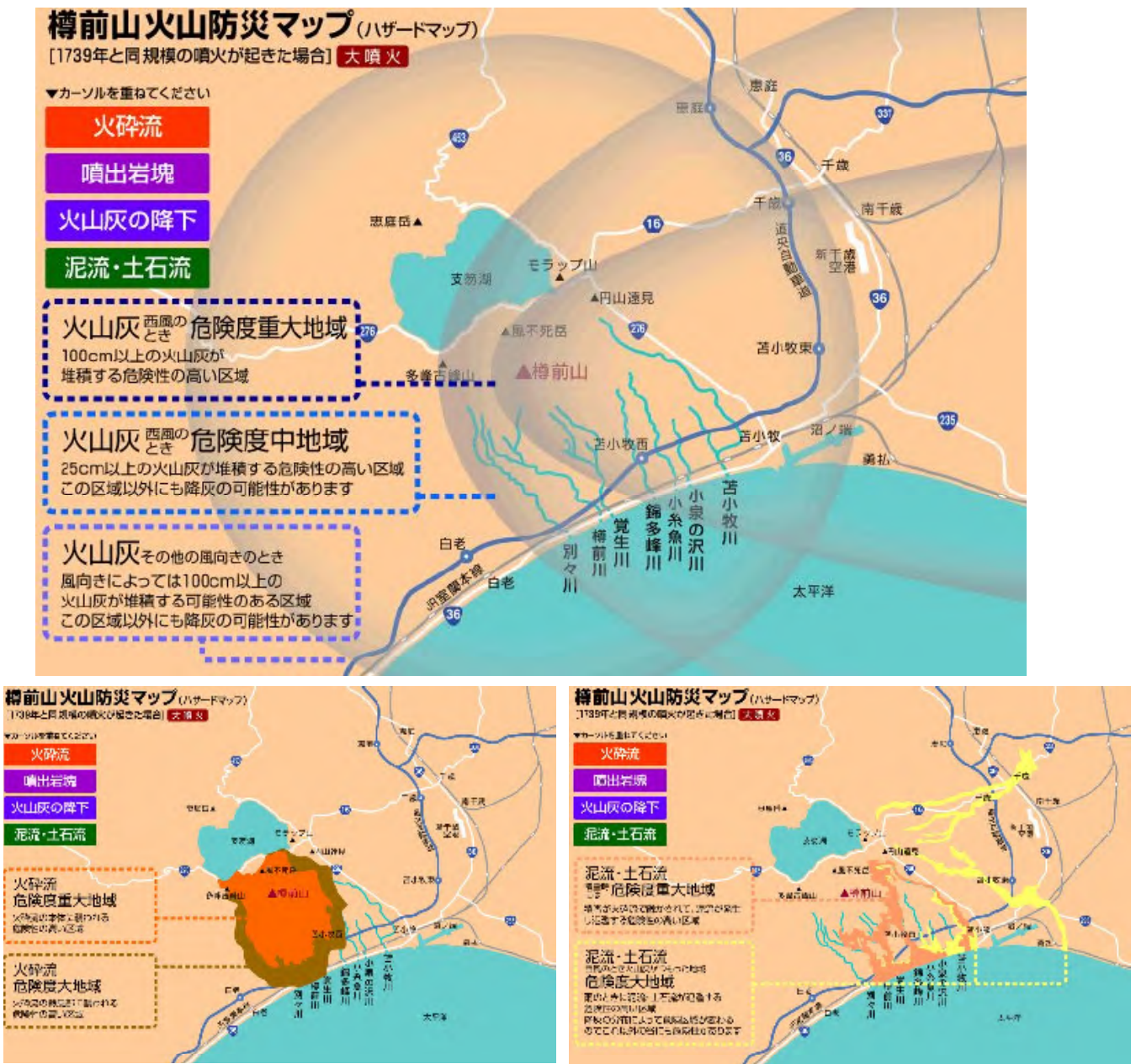
(6) 樽前山噴火ハザードマップ (苫小牧市HPより)

支笏カルデラの中に風不死岳、恵庭岳に続いて誕生した樽前山は、二千数百年の休止期の後、1667年に大規模な降下軽石(火山灰)を噴出し、火砕流を発生させた。

その後、1739年に1667年と同様な大噴火を起こしたのを始め、たびたび噴火を繰返しており、本市の防災対策の重点項目である。

樽前山では、過去の災害履歴から将来の火山災害について3つの可能性があげられており、いざというときの被害を軽減するためには、市民に火山災害について正しく認識してもらい、日ごろの備えをはかり、地域での防災活動に連帯して協力が必要としている。危険区域の範囲の情報や噴火時の心構えなどを理解のために、平成6年3月にマップを作成している。

図 1-8 北海道開発局室蘭開発建設部 HP の樽前山溪流環境整備計画より



(7) 漁港区における津波被害

苫小牧港の物流岸壁では耐震化が進められている。苫小牧市地域防災計画(地震・津波災害対策編)のもと、地域との繋がりや日々漁業関係者の往来がある漁港区において避難等の対策が要望されている。また、災害後においても水産物流通機能の早期回復が望まれる。



沖合へ避難する漁船



津波浸水被害を受ける岸壁

(8) 苫小牧港港湾BCP

苫小牧港では、東北地方太平洋沖地震・津波による未曾有の被災経験を受け、大規模地震・津波発災後の港湾における緊急物資輸送機能の確保や物流機能の継続が喫緊の課題となっている。

苫小牧港は、数多くの内外貿定期航路を有するとともに、北海道の海上取扱貨物量の約半分を扱う国際拠点港湾である。また、港湾の背後には数多くの企業が立地し、全国的な企業の生産活動の中においても、重要なサプライチェーンの一部分を形成しているため、北海道のみならず全国規模でその存在価値が高まっている。

そのため、苫小牧港の港湾機能が停止すると、背後圏の北海道内への影響は計り知れないものがあり、さらには国内外の経済活動にも多大な影響を与えるため、地震・津波等による大規模災害発生時には、港湾機能の維持及び早期復旧が求められる。このような背景から、苫小牧港が大規模災害によって人、資材、情報等が最小限の状態となっても、苫小牧港に関係する行政機関、団体、企業などが相互に連携を図り、港湾機能を維持、早期回復することを目指すため、苫小牧港における機能継続計画(BCP: Business Continuity Planning)を策定した。

苫小牧漁業協同組合もこの協議会メンバーであり、特に主体的に実施する団体としてボトルネックとなる被害調査が遅れると応急復旧活動全体に波及するとのことで、事前対策として各団体の避難方法の検討、参集方法の検討を上げている。また、連絡・情報共有としては、電話やインターネット等の通信手段が途絶することが想定されることに対して、参集場所の検討を上げている。

(9) 観光・交流

1) 苫小牧市観光振興ビジョン

平成28年2月、苫小牧市観光振興ビジョンが策定された。このビジョン策定において、参考とした「東胆振の新しい観光のあり方に関する調査結果」では、観光客が苫小牧についてイメージするものとして「豊かな水産物」と「工業地帯」が上げられている。また、地域の強みとして「ブランド力のある食資源…ホッキ貝」としている。

このビジョンの目標では、平成12年以来、15連続水揚げ日本一の「ホッキ貝」に代表される美味しい食材を有効に活用し、魅力ある観光地づくりを進めていくこととしている。また、主要施策においては地域の食の魅力を発信するため、関係機関等との連携した食のブランド化の推進と魅力や知名度を向上させ、海の玄関「苫小牧港」のおもてなし強化を図ることとしており、漁港区周辺施設の利用が期待されている。



海の玄関「苫小牧港」のおもてなし強化（苫小牧市観光振興ビジョンより）



寄港中のクルーズ船「にっぽん丸」



寄港中の大型帆船「海王丸」



クルーズ船「飛鳥II」の出港セレモニー



苫小牧港に寄港中のフェリー3隻

2) 漁港区及び周辺の観光スポット

苫小牧市は、北海道を代表する工業都市、産業都市である。

北海道の代表的な観光資源である自然景観や温泉の魅力をもつ支笏洞爺国立公園は、苫小牧市北部の山間部にあり、工業地帯が広がる海岸線の苫小牧市街地には、自然観光資源や温泉資源は乏しい。また、苫小牧市が有する自然観光スポットである樽前山、樽前ガロー、モーラップ樽前荘等も支笏湖周辺の山間地にある。

苫小牧市街地に近い自然観光資源にはウトナイ湖がある。ウトナイ湖には、平成21年10月に「道の駅ウトナイ湖」が開設され、自然鑑賞に加え立寄り施設機能が付加された結果、年間60万人以上が訪れる波及効果が誕生した。また、アウトドア体験施設として、錦大沼公園のオートリゾートアルテンやノーザンホースパークがある。苫小牧市街地の観光スポットは、公園施設（北星公園、緑ヶ丘公園、市民文化公園、あけの公園、拓勇公園、北ふ頭緑地（キラキラ公園）、イコロの森）、文化施設（勇武津資料館・勇払開拓史跡、苫小牧科学センター）、その他施設として勇払マリーナ、苫東柏原展望台、北大研究林、海の駅ぷらっとみなと市場などがある。



図 1-9 胆振・日高広域観光ルートガイドブック

出典：日高振興局



図 1-10 苫小牧市内観光マップ 資料：苫小牧観光協会

	<p>樽前山 樽前山は北海道の天然記念物に指定されている貴重な溶岩円頂丘（ドーム）があり、世界的に珍しい三重式活火山として知られています。市内から7合目ヒュッテまで車で約60分、7合目から頂上まで約50分で登る事が出来ます。高山植物の観察、支笏湖や羊蹄山等雄大な景色を堪能でき、気軽に登山が楽しめる山として親しまれています。（資料：苫小牧観光協会）</p>
	<p>樽前ガロー 昭和54年に苫小牧市の自然環境保護区に指定され、樽前山麓の林間にあります。切り立った岩が特異な景観を見せ、岩肌には新緑色のコケが張り付き、まるでピロードのジュウタンのようなのです。（資料：苫小牧観光協会）</p>
	<p>ウトナイ湖 ウトナイ湖は工業都市・苫小牧に近接しながらも、その多様な生態系が保たれている希少な湿地帯です。植物の宝庫、野鳥の楽園として知られ、特に鳥類はガン、カモ、白鳥等250種以上が確認されており、四季を通じて自然との触れ合いが楽しめます。（資料：ウトナイ湖サンクチュアリー、苫小牧観光協会）</p>
	<p>モーラップ樽前荘 苫小牧市が千歳市番外地に建設運営。 2005年4月に大規模改修が終了し、清潔感ある低料金休憩施設として人気。ライダーハウスとしての利用が多くシャワー、洗濯機、屋外で自炊も可。（資料：苫小牧観光協会）</p>
	<p>錦大沼公園（アルテンを含む） 錦大沼公園は、樽前丘陵の先端に位置し、錦大沼（周囲約1.6km）を中心に雄大な自然に囲まれた公園です。 昭和51年度から、多様化するレクリエーション需要に対応するため整備され、市民の憩いの場として広く利用されています。 昭和63年度には、建設省よりリゾートパークの指定を受け、国内最大級のオートキャンプ場「アルテン」が整備されました。多目的スポーツコート、カヌー基地、マウンテンバイクコース、パークゴルフ場、温浴施設「ゆのみの湯」等の施設も充実し、一年を通して利用できるキャンプ場となっております。（資料：苫小牧観光協会）</p>

図 1-11 苫小牧市内主要既存観光スポットの概要

表 1-6 平成 27 年度苫小牧市内のイベント一覧

月	日	イベント名	イベント内容
5月	10日	第42回緑ヶ丘公園まつり	緑ヶ丘公園金太郎の池を会場に開催。出店が並び、ステージでは音楽演奏やダンス・踊りの披露、お楽しみ抽選会やビンゴゲーム(小学生以下対象)等。
	17日	ノーザンホースパーク マラソン2015	日本初の牧場内を走るマラソン大会。種目はペアラン(2.5km)、トレイルラン(7km)、ハーフの3種目。参加者には一口馬主になれる抽選会もあり。参加者数2,500人
7月	11日～12日	第12回 海の駅 ぶらっとみなと市場祭	新鮮な魚や野菜、果物の大売り出しや、ホッキ焼きが当たる抽選会、ビアガーデン、ステージイベント等。
8月	7日～9日	第60回 とまこま港まつり	若草町中央公園をメイン会場とした夏の一大イベント。会場ではビアガーデン、協賛店が並び、市民おどりパレード、花火大会などが苫小牧の夏を盛り上げる。
		第17回 みなと フェスティバル	「とまこまい港まつり」に合わせ、唯一みなが見える北ふ頭緑地(キラキラ公園)会場で開催。焼き鳥、焼きそば、ビール等の販売、フリーマーケット、目の前の海上では、手漕ぎボートによる「はすかつぶボートレース」なども同時に開催。
9月	6日	第25回 紙フェスティバル	紙を使った展示の他、創る喜び、遊ぶ楽しみを体験できる、紙の街、苫小牧ならではのイベント
	12日～13日	2015たるまえ サンフェスティバル	樽前山の麓にあるオートリゾート苫小牧アルテンでバーベキューを味わいながら秋の休日をのんびりと楽しめるグルメイベント。ホッキ貝など苫小牧の特産品即売会やステージショーのほか、鮭のつかみ取りに大声コンテストなど参加型のゲームもあり、家族で楽しめるお祭り。
	26日	いぶりマルシェ	王子娯楽場パーク(とましん本店北)にて、いぶりの農水産物の販売、ご当地グルメの提供。
		第6回百縁商店街	市内表町や王子町などの54店が参加。100円でランチを販売したり、腕時計の電池交換、まゆ毛カットのサービスなど。
10月	18日	第5回 苫小牧漁港 ホッキまつり	苫小牧港漁港区岸壁を会場に、水揚げ日本一を誇るホッキ貝をメイン食材とした、ホッキカレー、ホッキごはんなどのホッキ料理が食べられる。大人気のホッキ販売、そのほか歌謡ショーなど、多彩なイベントで演出される豊かな海の収穫祭。
	29日	第9回 東胆振地産地食 フェア イン・とまこまい	東胆振で収穫される農畜産物、海産物等の食材を使用し、地元の料理人が創作料理をふるまう、地産地消をPRするイベント
	30日～ 11月1日	第32回 東胆振物産まつり	東胆振1市4町の特産品を堪能。東胆振地域の食の魅力を発信することを目的とした物産展。
11月	7～8日	第3幕 とまこまい コスプレフェスタ	参加者がアニメやゲームのキャラクターに扮し、苫小牧市内の商業施設や観光地で撮影などを楽しむ。樽前山神社で行われた開会式には、コスプレイヤーと関係者約100人が参加。
12月10日～ 2月11日		第5回 みなとのイルミネーション	苫小牧西港フェリーターミナルにて、フェリーをモチーフとした装飾や苫小牧公式キャラクター「とまちョップ」のイルミネーションが幻想的な空間を演出。
2月	7～8日	第49回 とまこまいスケートまつり	会場内にリンクが設置され、気軽にスケートが楽しめるほか、ドラム缶を加工した焼き台でジンギスカンを焼く名物「しばれ焼き」が味わえる。すべり台やスケートボブスレー、キャラクターショーなど家族みんなで楽しめる催し。

資料: 苫小牧市商業観光課、苫小牧観光協会、苫小牧民報

食体験施設として苫小牧特産のホッキ貝を核とした「海の駅ぶらっとみなと市場」及び併設の「ほっき貝資料館」の開設や、工業都市苫小牧の工場見学と企業の紹介を取り入れた「とまこまい産業観光」を地元企業20社と連携を図り推進している。また、工場のまち“苫小牧”の工場夜景を楽しむ「Factory Night View」と称する産業夜景マップを制作し工場夜景の観光にも力を入れている。

これら新しい立寄り施設の開設や産業観光の新規投入、イベントの質の向上、更には既存の市街地の自然・文化観光施設への誘導により、苫小牧市街地への観光客入込の増大が見込まれる。

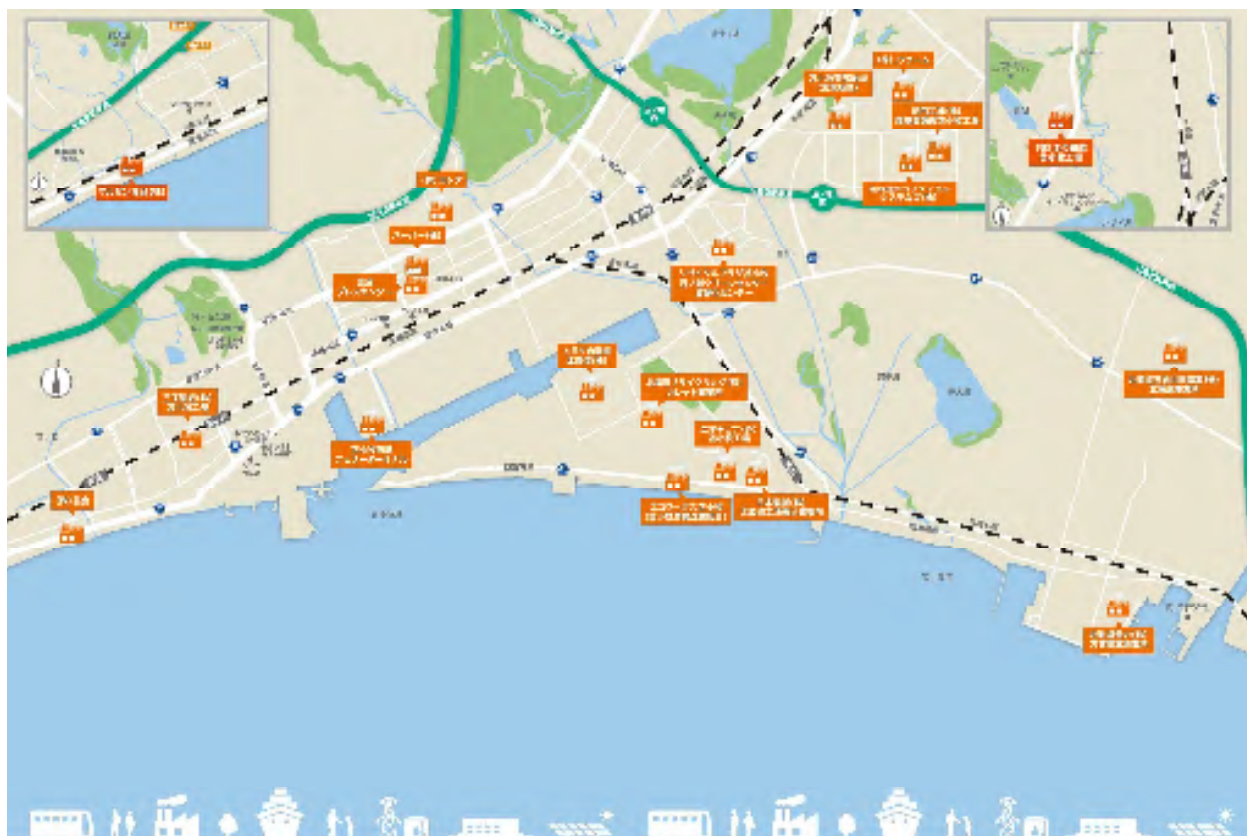


表 1-7 とまこまい産業観光参加企業（工場見学先企業）

① 苫民プレスセンター	⑪ 苫小牧東部地域(苫東地域)
② 王子製紙(株)苫小牧工場	⑫ トヨタ自動車北海道(株)
③ 日本製紙(株)北海道工場勇払事業所	⑬ 苫小牧西港フェリーターミナル
④ 王子ネピア(株)苫小牧工場	⑭ 北海道電力(株)苫東厚真発電所
⑤ ハーバー(株)	⑮ 北海道石油共同備蓄(株)北海道事業所
⑥ エコワークス苫小牧(苫小牧清掃企業組合)	⑯ (株)木の繊維 苫小牧工場
⑦ 北海道エコリサイクルシステムズ(株)	⑰ (株)ヨシダ
⑧ 北海道リサイクリング(有)カレット事業所	⑱ (株)Jファーム
⑨ 明円工業(株)環境資源部苫小牧工場	⑲ (株)苫食
⑩ リサイクルプラザ苫小牧・沼ノ端クリーンセンター・資源化センター	⑳ マルゼン食品(株)

資料: とまこまい産業観光GUIDE

苫小牧市の道内・道外客別、日帰・宿泊客別の観光客入込数の推移を以下に示す。

入込総数は、平成21年の1,517,953人から平成25年の1,838,454人と320,501人(21.1%)増加している。

道内・道外客別の入込数では、道内客の増加が顕著であり平成21年の946,723人から平成25年の1,288,605人と341,882人(36.1%)増加している。

宿泊・日帰客別の入込数では、日帰客の増加が顕著であり平成21年の1,410,788人から平成25年の1,703,687人と292,899人(20.8%)増加している。

表 1-8 苫小牧市観光客入込数

単位:人

内訳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
入込総数	1,517,953	1,678,080	1,794,930	1,889,779	1,838,454
道外客	571,230	621,477	510,680	570,679	549,849
道内客	946,723	1,056,603	1,284,250	1,319,100	1,288,605
日帰客	1,410,788	1,568,596	1,692,952	1,772,229	1,703,687
宿泊客	107,165	109,484	101,978	117,550	134,767

資料: 苫小牧市統計書

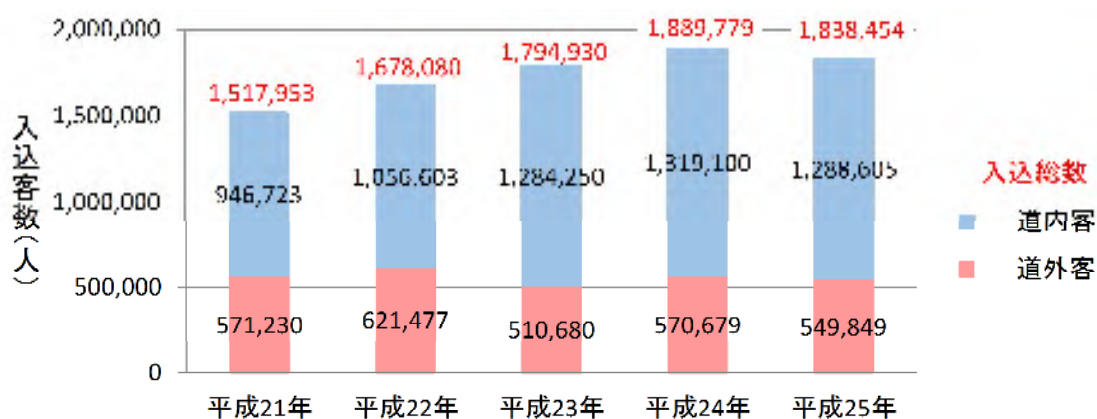


図 1-12 道内・道外客別の入込数の推移

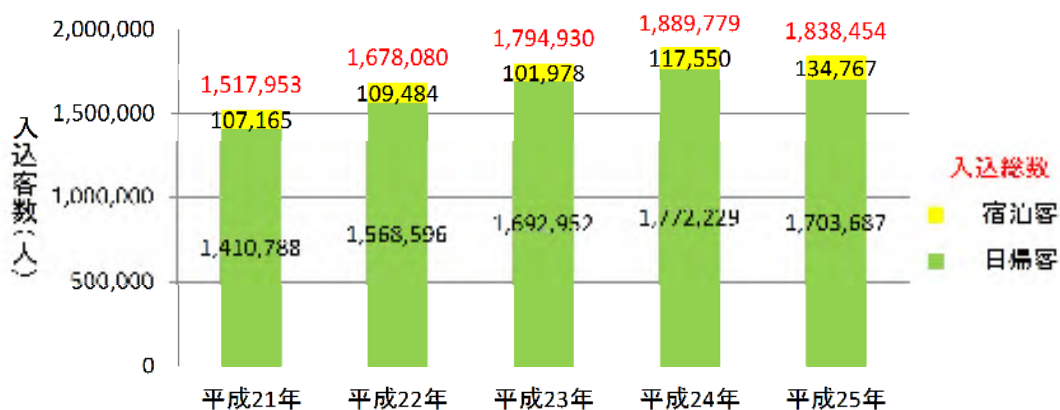


図 1-13 宿泊・日帰客別の入込数の推移

また、苫小牧市観光施設の利用者数を以下に示す。

表 1-9 苫小牧市観光施設の利用者数の推移

単位：人

内訳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
アルテン オートキャンプ場利用者	26,570	25,441	23,777	25,754	26,602
アルテン 青少年キャンプ場利用者	1,583	2,424	1,735	1,769	917
樽前山登山者	19,467	20,574	20,365	23,686	24,212
モーラップ休憩所利用者 (休憩+宿泊)	1,237	1,317	1,459	1,613	1,475
道の駅入館者	288,786	908,463	689,190	688,053	669,083

※道の駅は平成21年10月1日開設

資料：苫小牧市統計書

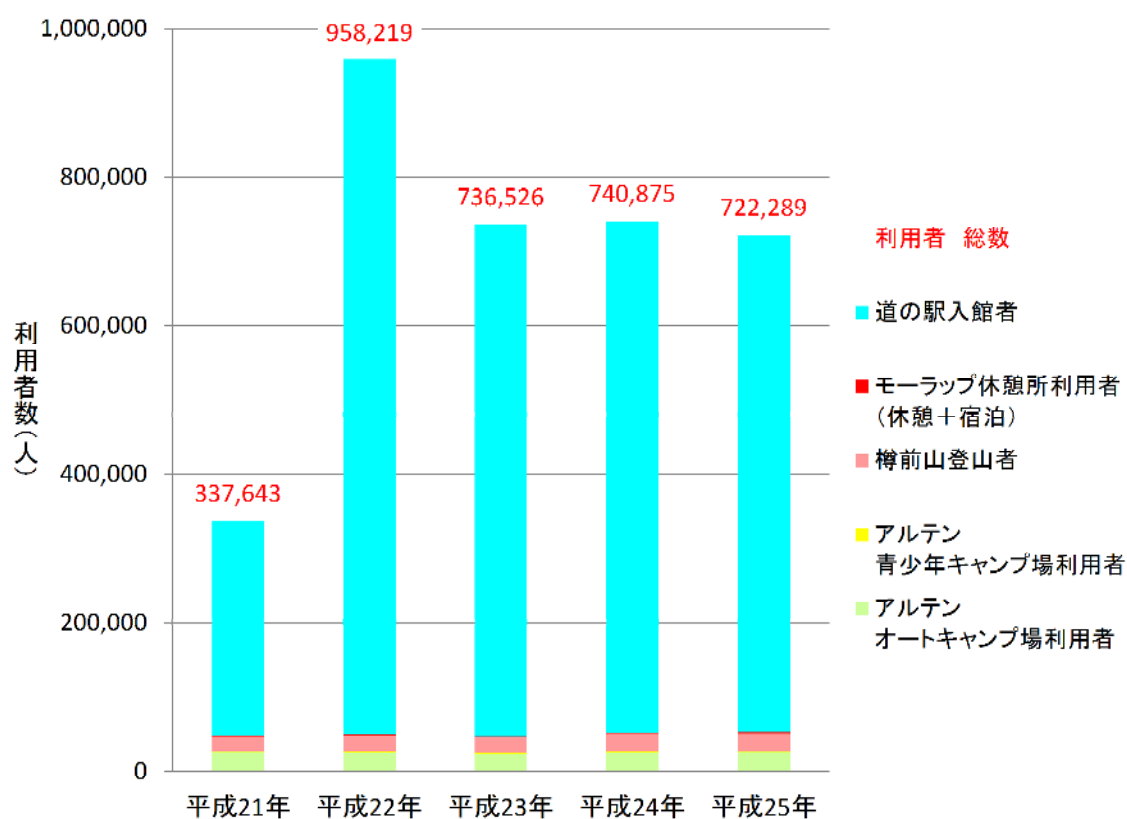


図 1-14 既存の苫小牧市街地の観光施設の利用者数の推移

3) みなとオアシス苫小牧と漁港区における交流

「みなとオアシス苫小牧」は、北海道の玄関口として、訪れる市民や観光客にイベント情報などを提供する情報発信基地として、苫小牧港湾振興会、苫小牧商工会議所、（一社）苫小牧観光協会、苫小牧漁業協同組合、（一社）北海道中小企業家同友会苫小牧支部、北海道港運協会苫小牧支部、（一社）苫小牧建設協会、女性みなと街づくり苫小牧、苫小牧港開発㈱、日本郵便㈱苫小牧郵便局、苫小牧市、苫小牧港管理組合が、「みなとオアシス苫小牧運営協議会」を運営している。

みなとオアシス苫小牧は、3つの特色あるエリア（北海道の玄関口「フェリーふ頭地区」、市民の憩いの場「北ふ頭地区」、食に欠かせない「漁港地区」）で構成されており、「開発埠頭フェリーターミナル」「北ふ頭緑地（キラキラ公園）」「ぷらっとみなと市場」「ほっき貝資料館」「苫小牧漁業協同組合」が構成施設となっている。

情報発信の他にも各エリアの交流スペースを活用したイベントを開催して市民などの交流機会を提供するなど、エリア相互に情報共有・発信し、一体となって“みなと”を交流拠点とした地域の活性化を目指している。



図 1-15 みなとオアシス苫小牧のエリア区分と構成施設

	<p>開発埠頭フェリーターミナル</p> <p>フェリーが発着し、送迎デッキやレストランからフェリー離着岸の様子を見ることが出来ます。3階には「ポートミュージアム」では、みなとの歴史パネルやフェリーの模型が展示、苦小牧港紹介ビデオも上映しています。</p> <p>運営者：苦小牧港開発(株)</p> <p>所在地：北海道苦小牧市入船町 1-2-34</p> <p>電話：0144-33-9261</p> <p>営業時間：24 時間営業</p> <p>定休日：年中無休</p>
	<p>北ふ頭緑地（キラキラ公園）</p> <p>大型船が間近にみられる公園です。水遊び場や遊具もあり、多くの市民でにぎわいます。客船が来た際にはイベントも開催されます。</p> <p>運営者：苦小牧港管理組合</p> <p>所在地：北海道苦小牧市入船町 3-1</p> <p>電話：0144-34-5551</p>
	<p>ぷらっとみなと市場・ほっき貝資料館</p> <p>北海道の新鮮な魚貝や野菜・果物が勢揃い、新鮮料理の食堂街も併設されています。</p> <p>運営者：海の駅 ぷらっとみなと市場事務局</p> <p>所在地：北海道苦小牧市港町 2-2-5</p> <p>電話：0144-33-3462</p> <p>営業時間：（物販）6:00～16:00 （食事処）7:00～16:00</p> <p>ほっき貝資料館 10:00～15:00</p> <p>定休日：毎週水曜日（一部営業）</p>
	<p>苦小牧漁業協同組合</p> <p>ほっき貝の水揚げ日本一を誇り、「ホッキー君」の愛称で苦小牧市の「市の貝」にもなっています。同じ建物内には、ホッキ料理で有名なマルトマ食堂も併設され、多くの観光客で賑わっています。</p> <p>運営者：苦小牧漁業協同組合</p> <p>所在地：北海道苦小牧市汐見町 1-1-13</p> <p>電話：0144-35-0111</p> <p>営業時間：9:00～17:00</p>

図 1-16 みなとオアシス苦小牧の構成施設の内容

表 1-10 みなとオアシス苫小牧の構成施設への利用者数の推移

単位：人

内訳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
開発埠頭 フェリーターミナル	672,854	660,414	591,395	718,385	708,775
海の駅 ぷらっとみなと市場	352,000	334,000	332,000	318,000	315,000
北ふ頭緑地 (キラキラ公園)	26,755	53,915	25,830	41,723	110,933

苫小牧港管理組合、海の駅ぷらっとみなと市場調べ

※「海の駅ぷらっとみなと市場」の利用者数には、「ほっき貝資料館」の入場者数を含む

※「開発埠頭フェリーターミナル」の人数は、フェリー乗込と上陸客数の合計

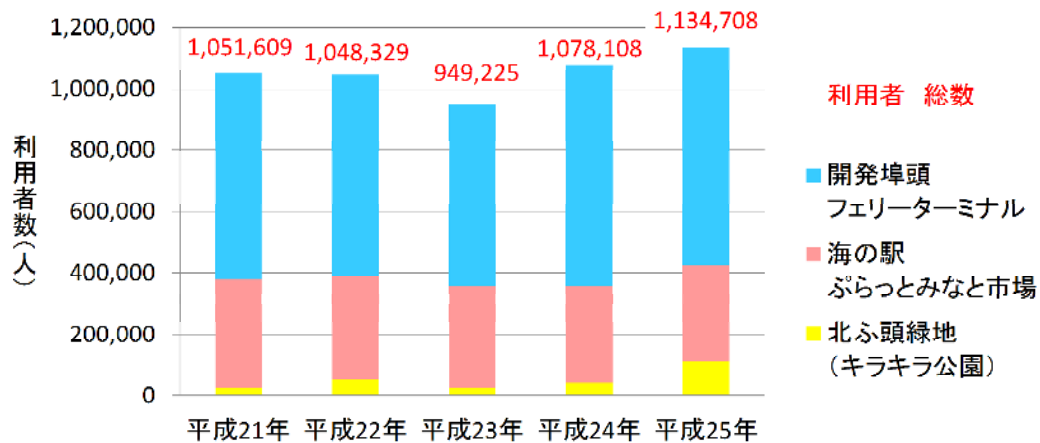


図 1-17 みなとオアシス苫小牧の構成施設への利用者数の推移

①観光イベントにおける漁港区の利用

- ・「苫小牧漁港ホッキまつり」



漁港区で開催される「苫小牧漁港ホッキまつり」

②日常的な漁港の利用

- ・ マルトマ食堂
- ・ 小学生の写生会 など



利用客で賑わうマルトマ食堂



小学生の写生会

③漁業との交流

- ・ 漁業施設見学、漁業体験



スケトウダラ網外し（漁業体験）



市場見学



ホッキ剥き体験

苫小牧港漁港区周辺は、苫小牧漁業協同組合、マルトマ食堂、ぷらっとみなと市場、ほっき貝資料館を有する食や観光に欠かせない地区であり、市民が港や海と憩えるエリアとして利用されている。